

〈出題内容・形式・配点〉

内容	形式	配点	試験時間
I 系統地理	記述	34	80分
II 地誌	記述	34	
III 地誌	記述	32	
合計		100	

【出題の基本方針】

教科書・地図帳・副教材・統計資料に掲載されている諸事実を、地図ないし現実の地理に即して体系的に理解しようと努める受験生が力を発揮することのできる出題である。単に地理用語を記憶するのではなく、地表上の諸現象を知識として身につけたうえで、それらを相互に関係づけて理解しているかどうかを問うている。教科書を基本とすることは当然であるが、現代世界の状況にも関心を持ち、それらを地理的な事象と関連付けることのできる応用力を有しているかも積極的に問うた。

【学習のポイント】

- 教科書全体を熟読し、内容を適切に理解するとともに、地名・語句を正しく表記できるようにしよう。地域や地名については、地図帳を用いて位置を正しく把握すること。また、統計データやグラフ・表などの資料が掲載されている場合には、それらを読み取ることのできる理解力を養う必要がある。単に用語を暗記するのではなく、用語を説明できるとともに、地理的な現象の背景にある要因も思考できる力を身につけよう。
- 地図帳のみならず、地形図や「地理院地図」などのウェブ上の地図にも日常的に親しんでおくとうい。地形図ないし「地理院地図」を用いた身近な地域の観察を通じて、地図を読み解く力は高まる。
- 多様なメディアで報じられる日々のニュースには、系統地理や地誌と関わる事項が多分に含まれている。新聞だけをとりても、世界の特定地域の地図が毎日のように掲載されている。現代社会の状況にも関心をむけて、地理的な理解力を育む努力も欠くことはできない。